

## トラック輸送情報（平成24年11月分）

平成25年2月4日

総合政策局 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

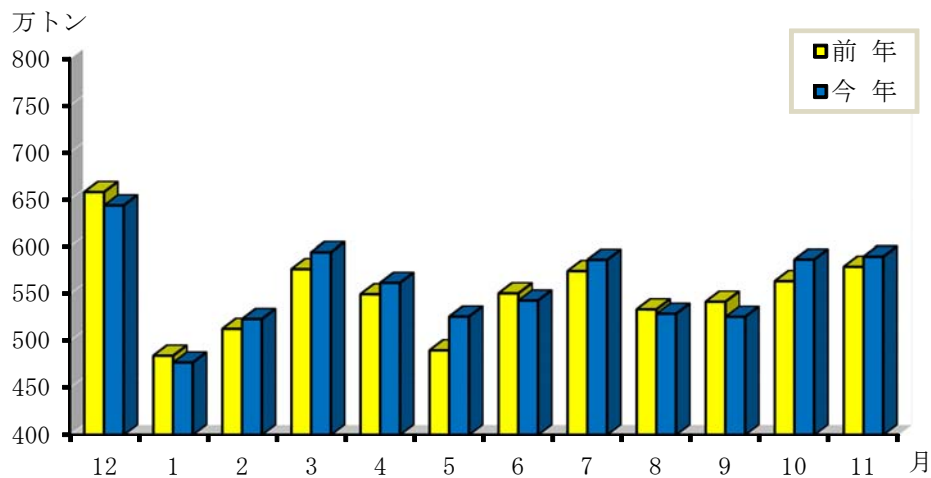
### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

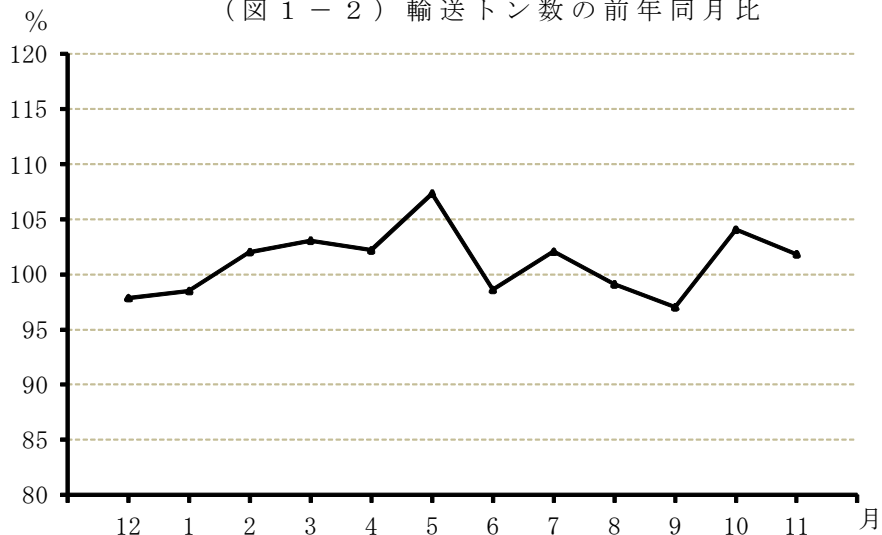
調査対象25社の本月の輸送量は、5,898,996トンで、前月と比べ総輸送量が約31千トン増加したため、前月比100.5%（季節調整済み100.6%）となり、前年同月との比較では、約107千トン増加したため、前年同月比101.8%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は22.7日で、前月と比べ1.5日減少し、前年同月との比較では、0.9日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、259,868トンで、前月と比べ約17千トン増加したため、前月比107.2%となり、前年同月との比較では、約13千トン増加したため、前年同月比105.4%の実績であった。

（図1-1）輸送トン数の推移



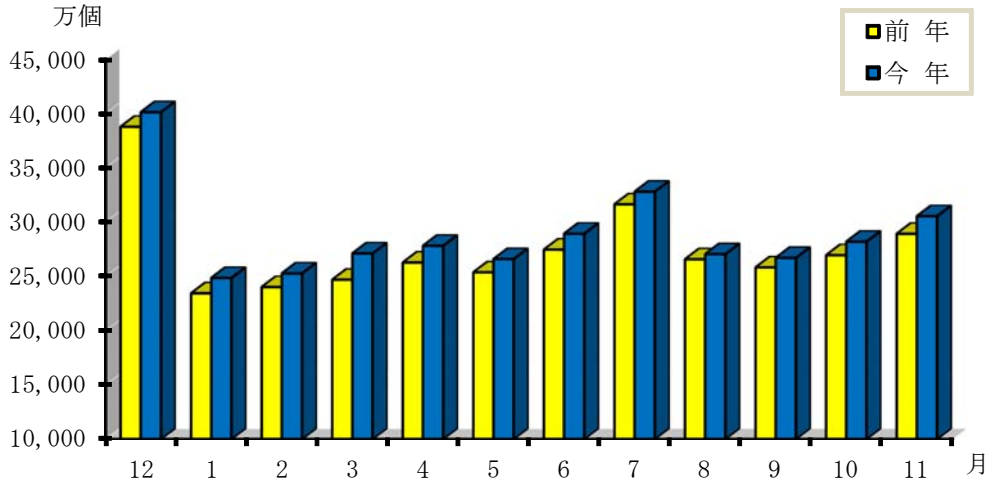
（図1-2）輸送トン数の前年同月比



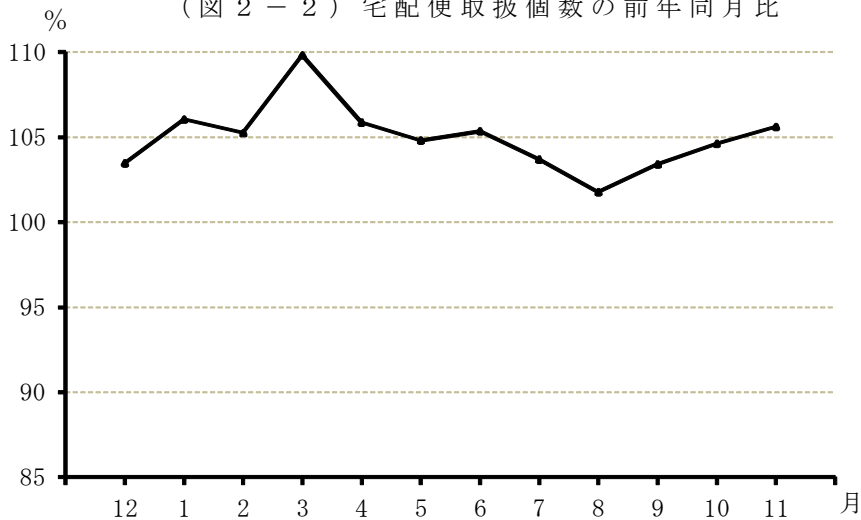
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、305,509 千個で、前月と比べ 約 23,463 千個増加したため、前月比 108.3% (季節調整済み 101.1%) となり、前年同月との比較では、約 16,214 千個増加したため、前年同月比 105.6%の実績であった。(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社(25 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、「その他 (百貨店配送品等)」の輸送量が増加したと回答する事業者があったものの、「農水産品」、「金属製品」、「機械」、「化学工業品」及び「繊維工業品」で、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。減少要因としては、工場・生産地からの貨物減が、「金属製品」、「機械」、「化学工業品」及び「繊維工業品」で見られた。

前年同月と比べると、「食料工業品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があったものの、工場・生産地からの貨物減を要因として「農水産品」、「金属製品」、「機械」、「化学工業品」、「繊維工業品」が、倉庫から出る貨物減を要因として「化学工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因	
	著 増	増 増	変 ら ず	減 減				
前 月 に 比 べ て	農水産品		2	11	2	3		
	金属製品		1	15	5		北陸信越	4
	機 械		1	14	5			4
	化学工業品		1	15	6			4
	繊維工業品			17	5			4
	食料工業品		3	14	3			
	日 用 品		5	13	4		関東	4
	そ の 他	2	1	14	2	1		
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		1	13	3	1	東北	4
	金属製品		1	15	5			4
	機 械		2	13	5			4
	化学工業品		4	12	6			4, 7
	繊維工業品			17	4	1		4
	食料工業品		3	14	3		製造食品	4
	日 用 品		3	14	5		その他の日用品	
	そ の 他		3	11	3	3	その他(百貨店配送品)	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者790社/調査対象事業者数1,052社)の輸送量は、前月比 98.4%、前年同月比 101.2%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	101.2 %	102.6 %	106.4 %	100.0 %	101.3 %	100.6 %	99.3 %	100.9 %	100.3 %	97.0 %	94.1 %	
前 月 比	98.4 %	96.4 %	97.2 %	99.4 %	97.9 %	100.5 %	98.1 %	99.6 %	103.1 %	99.1 %	94.1 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況(各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比96.4%、対前年同月比102.6%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」、「その他の農産品」、「その他の石油製品」、「化学薬品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、工場・生産地からの貨物減等により「畜産品」、「水産品」、「紙・パルプ」が、季節的需要減等により「穀物」、「野菜・果物」、「取り合せ品」が、景気の影響等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比97.2%、対前年同月比106.4%であった。品目別では、建設関連の需要増により「その他の石油製品」が、季節的需要増により「化学肥料」、「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「穀物」、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、輸出入の貨物減等により「木材」が、工場・生産地からの貨物減等により「工業用非金属鉱物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比で99.4%、対前年同月比100.0%であった。品目別では、季節的需要増により「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、商社・問屋からの貨物減により「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比97.9%、対前年同月比101.3%であった。品目別では、季節的需要増等により「その他石油製品」、「化学肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「穀物」が、工場・生産地からの貨物減等により「金属製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降については減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比100.5%、対前年同月比100.6%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「その他の窯業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比98.1%、対前年同月比99.3%であった。品目別では、輸出入貨物増等により「機械」が、デパート・スーパーからの貨物増等により「食料工業品」、「日用品」が、季節的需要増により「木材」が、工場・生産地からの貨物増により「化学肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減等により「機械」、「その他の化学工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比99.6%、対前年同月比100.9%であった。品目別では、建設関連の需要増等により「木材」、「砂利・砂・石材」が、景気の影響等により「その他の石油製品」が、季節的需要増等により「その他の化学工業品」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「穀物」、「機械」、「食料工業品」が、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降については減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比103.1%、対前年同月比100.3%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」、「その他の石油製品」が、工場・生産地からの貨物増や倉庫への入出庫増により「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、工場・生産地からの貨物増等により「木材」、「工業用非金属鉱物」、「機械」が、デパート・スーパーからの貨物増等により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降については減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比99.1%、対前年同月比97.0%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」、「その他の石油製品」、「食料工業品」が、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「機械」、「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、工場・生産地からの貨物増により「畜産品」の輸送量が増加したと回答する事業者もあった。一方、季節的需要減等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、工場・生産地からの貨物減等により「木材」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比94.1%、対前年同月比94.1%であった。品目別では、建設関連の需要増により「金属製品」、「機械」が、商社・問屋からの貨物増等により「木材」、「紙・パルプ」が、季節的需要増により「その他の農産品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、商社・問屋からの貨物減により「その他のくずもの」が、倉庫への入出庫減により「鉄鋼」が、季節的需要減により「その他の製造工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		増	減	海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増										1			1
	減	2	4		2				2			1		11
2. 野菜・果物	増	5	2		1					5		4		17
	減	6	2							1	1	2		12
3. その他の農産品	増	5										1	1	7
	減	1								1	1	1		4
4. 畜産品	増										1	2		3
	減	2												2
5. 水産品	増	1								1		1		3
	減	3								1				4
6. 木材	増	1							1	3	2		2	9
	減	2	2									3		7
7. 薪炭	増													
	減													
8. 石炭	増											1		1
	減	1			1									2
9. 金属鉱物	増									1				1
	減				1					1				2
10. 砂利・砂・石材	増	2	2			1				4	1	3		13
	減	8	1							4				13
11. 工業用非金属鉱物	増	1									3	1		5
	減		2							1	1			4
12. 鉄鋼	増					1				4		2		7
	減				1	1				1		1	1	5
13. 非鉄金属	増	1										1		2
	減									1				1
14. 金属製品	増	1	1					1		2	1	2	1	9
	減	1			2			1		3	1	1		9
15. 機械	増			1	1	1		2	2	2	3	4	1	15
	減		2		2	2	2	2	5			2		15
16. セメント	増		1		1	2				1	1	4		10
	減	3	1			1						2		7
17. その他の窯業品	増	1			1	1				2				5
	減		1		2				1	1		2		7

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増							1				1
	減											
19.その他の石油製品	増	7	1		2			2	4	3		19
	減											
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減											
21.化 学 薬 品	増	2					1		1	1		5
	減				1			1				2
22.化 学 肥 料	増		1		2		1			1		5
	減							1	1			2
23.その他の化学工業品	増	1						4	1	2		8
	減						1	1				2
24.紙 ・ パ ル プ	増		1		1			1	2	1	1	7
	減	2		1			2	2	1	2		10
25.織 維 工 業 品	増								1			1
	減				1							1
26.食 料 工 業 品	増	1					3	3	2	6		15
	減	4	5		1			3		8		21
27.日 用 品	増	2	1				3	1		2	1	10
	減	2			1		1		1	1		6
28.その他の製造工業品	増		1		1	1		1		2		6
	減		1			1					1	3
29.金 属 く ず	増											
	減											
30.その他のくずもの	増											
	減		1								1	2
31.動植物性飼・肥料	増							1	1	2		4
	減	1										1
32.廃 棄 物	増		1					2				3
	減		2					1				3
33.輸 送 用 容 器	増											
	減									1		1
34.取 り 合 せ 品	増							4	1	1		6
	減	2	1					3		1		7
35.そ の 他	増				2		4	1	1	4		12
	減	1	1		2	1	2		1	2		10